

With コロナにおける大学の就職・キャリア支援

独自のオンライン施策で学生を支援

CASE 1 追手門学院大学

18企業・団体と連携し、フルオンラインインターンシップを開発

キャリア開発センター長・基盤教育機構教授 伊藤文男氏 / キャリア開発センター・基盤教育機構大学常勤講師 大串恵太氏

検討会を4回開催し、活発に議論

追手門学院大学では「WIL (Work-Is-Learning)」をコンセプトに、「行動して学び、学びながら行動する」スタイルで実践的な学修を全学で展開。インターンシップや企業連携型のプロジェクト等をはじめ、専門科目等においても多様な協働型学修を通じて学生の協調性や発信性、社会への意識を培い、将来のキャリア形成につなげている。とりわけインターンシップには実績があり、2001年から全学部で正課として実施し、2019年度夏期の提携社数は100社に上る。全学年に開かれており、近年は低学年を中心に多くの学生が参加。受け入れ先企業のリアルな課題に取り組む実践型プログラムも大学独自にコーディネートし、学生と企業双方から好評を得てきた。

今年度はコロナ禍により従来のインターンシップの実施は中止に。しかし、「行動して学び、学びながら行動する『WIL』の姿勢を大学自身が率先して示し、学生の学びを止めないためにできることをやらなければ」と産学連携のオンラインインターンシップの開発を始めた、とキャリア開発センター長・伊藤文男氏は振り返る。約250社に呼びかけたところ、18企業・団体がプロジェクトに参画。「Zoom」による開発検討会を5月上旬から4回開催して学生の意見も取り入れながらプログラムを開発した。

今回のノウハウを広く活かしたい

検討会に参加した企業・団体の業種や

規模は幅広く、関西拠点のスタートアップ経営者団体「秀吉会」等初めての提携先も含まれている。「リモートワークの導入状況やビジネスの進め方も多様で、検討会での情報交換が有意義だったとの声をいただいています」と伊藤氏。実施が決定した12プログラムは「鳥根県雲南市の魅力発掘・発信」「高齢者・障がい者施設でのリモートリクレーションの開発実施」等多彩な内容。実施スタイルは「Zoom」や、提携企業・団体のアドバイスで大学に新たに導入した「Slack」等のツールを使ったフルオンラインだ。

6月中旬に学生に告知をし、7月初旬にかけてオンライン説明会を開催して参加者を募り、8月中旬から提携先ごとにプログラムを開始。1、2年生を中心とした約45名が参加している。参加者は昨年度より少ないが、「新たな企画にチャレンジしてくれた学生たちだけに、例年以上に意欲的」とキャリア開発センター長大串恵太氏。学生からは「社員の話から、社会人の考え方が分かった」「社員が1対1で話をしてくれ、勉強になった」という声が多く、「人と人との関係構築は、予想

した以上にできています。『WIL』のコンセプトに共感し、積極的に学生と関わってくださる企業ばかりであることが大きく影響していると思います」と話す。

鳥根県雲南市とのプログラムでは、祖母が住む雲南市の活性化に関西にいながらにして携われることに魅力を感じて参加した学生もいた。「遠隔地の人や企業と連携しやすいのはオンラインの大きなメリット」と大串氏。伊藤氏も「今回のノウハウを活用して地方企業や全国の大学との連携も進め、インターンシップに限らず、『WIL』のプログラム全体の可能性を広げたい」と取り組みに手応えを感じている。

● 2020年度オンラインインターンシッププログラム・タイトル一覧
 日程は10日間程度が中心で、1カ月以上の長期プログラムもある。鳥根県雲南市のプログラムには鳥根大学の学生も参加し、学生間の交流もできる。

タイトル
1 オンラインでできる効果的な採用活動方法を考えよ これからの就活を変えるのは君だ!!
2 With & After コロナの社会に安心安全を! 大切な人に「楽しく会う」ためのガイドライン作成プロジェクト
3 離れていても、あなたの笑顔は絶やさない! リモートリクレーション開発実施プロジェクト
4 オンラインで、対人業務の研修は作れるのか?! 新入社員研修開発実施プロジェクト
5 まずは知る!これが一番効率的だと思えます! 超!高効率オンライン企業見学!
6 全国の介護施設を巻き込んだオンラインカラオケ大会を仕掛ける! 高齢者が世代間交流をしながら輝けるプロジェクトづくり
7 誰もがいきいき輝ける社会へ! 男女共同参画センター クレオ大阪のPR動画制作プロジェクト☆
8 追手のWebコンテンツなども手掛ける企業で印刷業界の未来を共に考える 大平印刷株式会社 5Days インターンシップ
9 完全オンラインで実在のアプリの海外展開に挑む真のグローバルビジネス経験「Global Marketing Online」
10 鳥根県雲南市の魅力発掘・発信プロジェクト
11 SNSでムーブメントを起こして「ありがとう」が響き合う社会を作る! #エッセンシャルワーク #ありがとうプロジェクト
12 関西スタートアップ企業経営者達の「天下一の志」 実力派経営者から学ぶ成長企業の見分け方

CASE 2 麗澤大学

3年生692名を対象に、6月中旬から「オンライン全員面談」を実施

キャリアセンター 副部長 長谷川 善仁氏 / キャリアセンター 課長 石光俊明氏

情報提供のタイミングを逃さない

1学年約600名の小規模校の特徴を強みに「一人ひとりに合わせたフルオーダーメイドのキャリア支援」を目指す麗澤大学キャリアセンター。本格的な就職活動の開始を控えた3年生を対象に、2017年から「全員面談」を実施している。就職活動の早期化に伴い、学生の不安を取り除くとともに、意識形成を促すために始めた取り組みだ。学生との関係を深めるきっかけになっており、早い時期から学生一人ひとりの進路志向や人となりを把握したうえで、きめ細かなサポートを提供している。

全員面談は例年4月のガイダンスで案内し、6月初旬から対面で実施してきた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で構内立ち入り禁止となったが、全員面談については「コロナ禍だからこそ、やらなければと考えた」とキャリアセンター副部長・長谷川善仁氏は語る。麗澤大学では3月初旬からオンラインで進路相談や4年生対象の模擬面談を実施。4年生とは盛んにやりとりをしていたが、コロナ禍で採用市場全体の変化が十分に把握できていない学生が多く見られた。「意識形成されているはずの4年生がこの状態なら、3年生にはより丁寧な情報提供を行う必要がある」と判断したという。

そこで、本年度は6月15日より「Zoom」による全員面談を開始。昨年度までは

30分の個人面談だったが、企業の夏期インターンシップの申し込みに間に合う時期に学生の意識形成を促したいと考え、迅速性を優先。なるべく多くの学生にタイミングを逃さず情報を提供できるよう、カウンセラー5名体制で、1枠につき学生最大4名・45分のグループ面談を行っている。

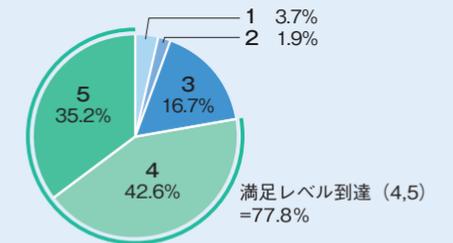
つながりを絶やさずひとりにしない

「オンライン全員面談」は、2020年8月末時点で3年生692名のうち81.4%に実施が完了。開始が今年度より2週間早かった昨年度の実施完了率は9月末時点で82%だった。「募集開始とともに予約が入りました。例年よりも反応が大きく、コロナ禍下での就職活動に対する3年生の危機感の強さを表している」とキャリアセンター課長・石光俊明氏。母国に帰国している留学生の反応は少し遅れたというが、国外にいる学生にも支援が可能なのはオンラインのメリットだろう。面談を終えた学生からは「コロナで就職活動がどうなるか分からず不安だったが、安心できた」「麗澤大学の学生に合った、他にない情報を得られた」と好評だ。

オンラインのグループ面談は「会話が一方向的になりがちという難点はある」と

● オンライン面談に関する満足度

2020年3月からの3カ月間に、キャリアセンターのオンライン面談を利用した在学生249名(4年生238名、3年生11名)を対象に実施。8割弱の学生から5段階評価で「4」以上の評価を得ている。



石光氏。ただ、フォローは可能だ。面談そのものは随時受け付けており、例年多くの学生が全員面談をきっかけに個人面談を継続的に受けている。今年はキャリアセンターの「Zoom」を常時接続にし、いつでも予約なしで気軽に受けられる「オンライン窓口」を開設。長谷川氏、石光氏ともに「1対1であれば、学生とのコミュニケーションに大きな支障はない」と口を揃える。

学生のキャリア支援において重要なのは「つながりを絶やさず、ひとりにしないこと」と両氏。全員面談後も学生には「LINE」やメールで情報提供を続け、就職活動の様子が見えない学生には必要に応じて電話もしている。例年年度末までには9割以上の3年生と面談を実施できており、教員とも連携して学生に呼びかけながら、文字通り「全員面談」を目指す。

(文・泉 彩子)